

三四六七番

奥山おくやまの 真木まきの板戸いたどを とどとして 我わが開ひらかむ
に 入りいて来きて寝なさね

三四六八番

山鳥やまどりの 尾をろのはつをに 鏡かがみ掛かけ となふべみ
こそ 汝なに寄よそりけめ

三四六九番

夕占ゆふけにも 今夜こよひと告のらる 我わが背せなは あぜそも
今夜こよひ よしろ来きまさぬ

三四七〇番

相見あひみては 千ち年とせや去いぬる いなをかも 我あれや然しか思も
ふ 君待きみまちがてに